ワモンゴキブリ及コワモンゴキブリの觀察（2）

楚南仁博

臺灣博物學會々報
第17卷第90號別刷

1927,6月

ワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリの觀察

楚南仁博

私は1924年に本會報 Vol. 14, No. 74 に於いて本題に就いて報告したが、本文では其の後に於ける觀察及び實驗を報ずる。

色に對する趨性

ワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリの成蟲17疋を午後1—4時に室内に於いて長さ2尺5寸幅1尺高さ2寸の亞鉛板の箱内に放ち茶、赤、茶の順に色硝子板で被ひ何れの下に多く集まるかに就いて實驗した放置後15分間の後に觀察したら。

赤硝子板の下—10疋
茶硝子板の下— 4疋
茶硝子板の下— 3疋

次ぎに各硝子板の位置を赤、茶、茶と換へて15分間の後觀察したら。

赤硝子板の下—17疋
茶硝子板の下— 0
茶硝子板の下— 0

今度は茶、茶、赤と順を換へて15分間の後見たら。

赤硝子板の下—14疋
茶硝子板の下— 3疋
茶硝子板の下— 0

次ぎに赤、茶、赤と換へて15分間後に見たら。

赤硝子板の下—10疋
茶硝子板の下— 0
赤硝子板の下— 7疋

次ぎに茶、赤、赤と換へて15分間後見たら。

茶硝子板の下— 0
赤硝子板の下—12疋
赤硝子板の下— 5疋

以上赤色と茶色の2色中ワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリの成蟲は赤色の光線を好むやうである。

趨地性

ワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリ各15疋宛を高さ2尺縦、横各尺1のブルキ罐に入れ、罐の内に馬糞紙で垂直面、斜面及び水平面に裝置したものを多數入れて放置後3時間で如何樣に靜止して居るかを觀察したところ孰れも罐に接した垂直面か又は傾斜面に靜止して水面に靜止して居るものは1疋もなかつた、之れを 15時間再び觀察したが何れも同樣の結果であつた、卽ち此の種は Laeb の觀察した如く平面に止まるのを好きないで垂直面か又は夫れに近い傾面に靜止せやうとする傾向がある。

溫度に關する試驗

(A)

ワモンゴキブリ成蟲 5疋（4♀、1♂）
同　　幼蟲 1疋（體長 15 mm. 內外）
コワモンゴキブリ成蟲 2疋（1♀、1♂）

以上を高さ2尺縦横各1尺の木製金網張りの昆蟲飼育箱内に放置し且つ新聞紙及ビスケット數箇を入れと1925年1月8日午前11時30分に溫度 F. 34 度 (C. 1. 1 度) の冷藏庫内に入れて1月10日午後2時30分（冷藏時間51時間）に冷藏庫から出して直ぐ觀察したら、是等は仰向きか又は腹面を下方（常態）にして肢を伸ばして假死の狀態にあつた、内ワモンゴキブリ2疋、コワモンゴキブリ1疋は觸角、鬚、肢等を時々僅かに動かすものがあつたが、他は全く死體と同樣何處も動かすやうなことはなかつた。

1月11日午前10時に之れを觀察した全數息生して飼育箱内を歩行して居た。

1月12日午前9時に觀察したら非常に元氣で普通の狀態と異なつて居ない。

(Aa)

1月13日午前11時30分に之れを再び F. 34 度 (C. 1. 1度) の冷藏

庫內に入れる。(同日午前10時に觀察したら昨日同樣非常に元氣であつた)。

1月20日午前11時30分冷藏庫から出したら (冷藏時間7晝夜) 全部假死の狀態である。

1月21日未だ息生せない。

1月22日息生せない。

1月23日息生せない。

1月24日全く死んで居たものと見へ息生せない。

(B)

ワモンゴキブリ成蟲 5疋 (3♀、2♂)

同 幼蟲 1疋 (體長 35 mm. 內外)

コワモンゴキブリ成蟲 2疋 (1♀、1♂)

(A) と同樣飼育箱內に入れ1925年1月8日午前11時30分 F. 44度 (C. 6. 7度) の冷藏庫內に入れる。

1月9日午前10時に冷藏庫內で觀察するに全く假死の狀態である。

1月10日午後2時30分 (冷藏時間51時間) 冷藏庫から出して觀察するに (A) と同樣全く假死の狀態にあつた、ワモンゴキブリ雌3、コワモンゴキブリ雄1雌1は觸角、鬚、肢を僅かに動かくのを見た。

1月11日午前10時ワモンゴキブリ雌1疋を除く他は全部息生して步行して居るのを見た。

1月12日午前9時に見たら全部 (昨日假死の狀態にあつたワモンゴキブリの1雌も) 非常に元氣で常時と異ならない。

(Ba)

1月13日午前11時30分再び F. 44度 (C. 6. 7) の冷藏庫內に入れる (午前10時に見たら昨日と同樣非常に元氣である)

1月20日午前11時30分冷藏庫から出す (冷藏時間7晝夜) 直ぐ觀察したら、コワモンゴキブリ2疋は小腮鬚を僅かして居るが、他のものは死狀で何處も動かさない。

1月21日 コワモンゴキブリ2疋は息生する、ワモンゴキブリ

は全數死狀を呈して居る。

1月22日 ヨワモンゴキブリは恢復はして居るが餘り元氣がない、ワモンゴキブリは死狀を呈して居る。

1月23日 コワモンゴキブリ元氣非常に劣ふ、ワモンゴキブリは全く死んで居たものと見へ息生せない。

1月24日 コワモンゴキブリ死狀。

1月25日 コワモンゴキブリ息生せない。

概要

以上の試驗によるとワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリは F. 34度 (C. 1. 1) 及び F. 44度 (C. 6. 7度) に於ては假死の狀態になり、2晝冷藏では息生するが、7晝夜では全く死ぬやうである。

越 冬

ワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリは平地では5-11月の間は屋內に跳梁し12—4月でに隱れて何にも食はないが、其の時でも溫度が70度近くになると夜間出て來て食を求める、卽ち是等の越冬は全く氣溫によるものと考へられる。

標高に於ける觀察

臺灣の中南部の山地でワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリは標高の幾程まで生活して居るかに就て調べて見ると新高山の東埔警察官駐在所 (3,900尺) では平地と同樣非常に澤山居つて困つて居るが 5. 600 尺の樂々警察官駐在所では殆んで見當ない、7,100尺の對關警察官駐在所、8,300尺の觀高警察官駐在所、9,300尺の八通關警察官駐在所でも見當ない、而し偶々食料品と一緒に下の方から來ることがあるが、間もなく姿を滅してしもうとのことである、觀高に於ける1923年の各月の平均溫度を示すと次の樣である。

1月	42.1	4月	50.2	7月	58.3	10月	47.0
2月	37.0	5月	54.6	8月	55.0	11月	49.3
3月	47.0	6月	57.6	9月	57.0	12月	42.8

阿里山に於ては阿里山（7,270尺）では全く見ないが、奮起湖（4,600尺）では火鉢の間には居るが夜間室内を歩くのを見たことがないと云ふて居る、水社寮（3,886尺）では夜間少しは出るが嘉義のやうではないと云ひ、交力坪（3,280尺）梨園（2,958尺）では夜間出るが左程多くはないと云ふて居る。

以上によると是等の種は中南部では標高 5,000 尺内外では自然の狀態にあつては生活し得ないやうに思はれる。

屋外に於ける生活

ワモンゴキブリ及びコワモンゴキブリの幼蟲が四季の別なく人家近くの芭蕉園に於て芭蕉の皮下に隱れて居ることを時々見受ける、是れは恐らく夜間芭蕉園内をも徘徊して食を求め居るものと考へられるが、しかし是れは疑ひもなく人家から來たもので又再び何時かは人家に歸るものだらうとは其の數の非常に少ないこと又今日まで見たものが殆んど幼蟲であることから左樣に考へられる。

農業部農業試驗所
1895
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE